

2020年度事業報告書

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構

I 事業期間

2020年4月1日～2021年3月31日

II 事業の成果と課題

(1) 新型コロナウイルス感染予防対策の推進

① あいりんシェルターでの感染予防

4月の緊急事態宣言を受けて、宿泊棟及び昼の居場所等への出入りを、ホームレス状態で宿泊を希望する方のみ限定することになりました。

孤立を防ぐためにホームレス状態でない方との交流はとても重要なことですが、感染防止を優先せざるをえない状況となりました。

西成区役所分館で福祉局が発行する宿泊依頼状を持つ人が利用できることになり、のちに宿泊依頼状は釜ヶ崎支援機構が発行するカードに切り替わりました。

各ベッドに、医療用の防火カーテンを取り付けました。中国からの輸入の停滞のため、カーテン取り寄せに相当の時間を要し、8月末に取り付けを完了しました。あいりんシェルター敷地の出入口にあたる赤門において検温・アルコール消毒を実施しました。また、毎朝の宿泊棟退出時に検温を実施しました。

シェルター利用者の中から臨時のスタッフを採用し、1時間おきにトイレ・手すり・ドア・床等の消毒作業を実施しました。利用者はマスク着用が常時義務づけられました。

日中の居場所等での三密を避けるため、宿泊棟への入場開始時間を14時30分としました。

② 特別清掃での感染予防

地域外に車で移動する際の密集・密接が課題となりました。そこで、就労人数の再編成を行い、車での移動を必要としない地域内の清掃・西成労働福祉センター駐車場作業の人数を増やすことになりました。

結果として、地域内清掃1班ごとの人数が多すぎるという問題が生じ、8月～10月は徒歩で移動する地域外（近隣地域外）の取り組みを始めました。しかし、徒歩圏内での作業現場の確保に限界が生じ、大阪市福祉局との協議の経て、特掃シェルター清掃が11月からスタートしました。模索をしつつ作業現場の維持に努める1年間となりました。

③ 大阪社会医療センターの協力

医療へのアクセスがしづらいシェルター利用者や特掃登録者への対応をするにあたって、大阪社会医療センターに協力していただけることになりました。シェルターや特掃で37.5度以上発熱した人が出た場合、通常の診察受け入れ時間外でも柔軟に診察・検査いただけることになり

ました。PCR 検査ではありませんが、レントゲン、CT、血液など各種検査を組み合わせると診断はできるとのことでした。このように受け入れてくれる医療機関があったことで、感染予防対策と感染した場合の支援を充実させることができました。

④ コロナ陽性の人への対応

感染予防対策を工夫して進めてはいましたが、シェルター利用者と特掃登録者の感染を完全に防ぐことはできませんでした。10月に2人、3月19日から4月1日の間に5人、陽性となった方がおられました。大阪社会医療センターが重要な役割を果たしています。

保健所の聞き取りに応じながら、アドバイスを受け、対策を進めました。幸いクラスター発生ではないという判断をいただいたので、一部閉所等の措置を取らずに済みました。3月以後利用者が使用する昼の居場所棟のすべての机に仕切りを設置しました。肌寒い時期でありましたが、あいりんシェルターの窓を開放し、扇風機で空気の流れを作ることにしました。特別清掃では水分補給のためのコップを紙コップに変更しました。

(2) コロナ禍における生活困窮者・住居不安定者の支援の推進

コロナの影響を受けて仕事と住まいが不安定となっている方への支援を行いました。

① 「住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」

大阪市内のホームレス支援等に携わる22団体と協働し、緊急相談窓口を立ち上げました。キャンプ・ファイアーのクラウドファンディングを活用して広くご寄付を呼びかけました。522人の方から7,153,480円の寄付が寄せられ、緊急の宿泊支援、再就職支援や生活保護の申請支援を行いました。このプロジェクトは現在も継続しています。

② 総合支援付き居住支援

「住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」では、建設や派遣などの寮付きの仕事を紹介する・生活保護の申請を支援する等の方法で生活の安定を図ることができ、成果をあげました。課題は、寮付きの仕事も生活保護も希望しない人への対応でした。寮付きの仕事希望しない理由として、仕事が無くなれば住まいも失う不安定な状態から抜け出したいという方もいました。制度の隙間を埋めてホームレス状態からでも選べる選択肢を増やしていくため総合的居住支援を開始しました。認定NPO法人抱樸より「コロナ緊急支援家や仕事を失う人をひとりにしない支援」として寄付をいただくことができました。この寄付金を活用し、サブリース型の「支援付き住宅」を22室確保しました。また抱樸よりアドバイスをいただきながら、さらなるクラウドファンディング「コロナ支援 - 大阪の未来を支える世代に居住支援を #ほっとかへんで大阪」に取り組みました。250人の寄付者のみなさまから総額7,170,000円の支援をいただきました。この「#ほっとかへんで大阪」に寄せられたご寄付を活用して、就労での自立を希望する方には、4カ月間家賃や水光熱費をご支援することにしました。ホームレス状態に至った方が就職する時に支弁することが困難な交通費や昼食代、場合によっては携帯代などを、このご寄付から支出することで、より速やかな就労自立に結び付けることができます。生活保護を活用して生活の安定をめざす場合にも支援付き住宅を活用しています。近年釜ヶ崎で増加している海外から日本に滞在している方で、入国制限のため母国に帰れ

ずホームレス状態になってしまっ場合などにも、この総合支援付き居住支援を行っています。

③ NHK 歳末たすけあい

2020年～21年の越冬の取り組みに、特別配布を受け、非常食・米等を購入し、三角公園周辺での炊き出しや緊急宿泊テントにて、配布を行いました。生活保護申請時の緊急支援にも活用しました。

(3) 休眠預金を活用した助成の運用

① 信頼資本財団助成「脱・孤立のための助成プログラム」



信頼資本財団から助成を受けて、「ヨリドコオンライン」を開設しました。

この事業はホームレス状態や困窮状態の人に情報を届ける（アウトリーチ）ことと、時代にマッチした新しい相談対応を行うことを目的とした事業になります。

釜ヶ崎には様々な社会的資源があります。しかし、最近の傾向として若年層にとってこの地域が「怖い」という先入観が広がっており、この地を敬遠する人が増えています。そういった誤解を解くとともに、釜ヶ崎の支援やサービスの情報を知ってもらうことも目的としています。

支援団体や行政が出す情報は「お堅い」表現がどうしても多くなってしまいう傾向にあります。必要な情報だったとしても、理解しづらかったり、興味をもちづらいつ感じてしまう方が多数います。

ヨリドコオンラインでは、多くの人に興味を持ってもらえるような発信を心がけ、Youtubeでの動画配信（『ヨリドコチャンネル』）、LINEを使った情報発信や相談対応、ウェブサイトでの情報発信を行いました。



②ヒューファイナンス助成「萩之茶屋地域ひと・まち・いきいきリカバリー事業」

3つの活動によって、萩之茶屋における健康・安全の増進や交流づくりを行う事業です。

- (A) 新しくなった市営萩之茶屋住宅の住民のつながり・交流づくりの支援。
- (B) 結核検診勧奨と仕事情報シェア機能等利用者にとっての利便性の向上をめざすあいりんシェルター入場システム
- (C) 多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ、居場所づくり支援。

(A)～(C)のうち、2020年度は特に(B)に力を入れて取り組みました。新型コロナウイルス対策の重要な仕組みとして役立たせることができました。

(4) 釜ヶ崎の夏祭り・越冬闘争に、資材準備・設営・経理等で参加しました。

釜ヶ崎の人々と共に、野宿を強いられない社会を求めて、地域の団体と協力して、夏祭り・越冬闘争に参加しました。

夏祭りは新型コロナ感染予防を優先し、慰霊祭のみ開催となりました。

Ⅲ 事業の実施状況

(1) 就労機会提供事業

① あいりん地域高齢労働者就労自立支援事業

大阪府から「あいりん地域高齢労働者就労自立支援事業」を受託しました。

そのうち「あいりん地域外清掃業務」では、府立施設・府立高校・道路・河川等で、除草・清掃・剪定等の作業を行いました。

「西成労働福祉センター周辺交通安全警備業務」では、あいりん労働福祉センターに出入りする求人車両の誘導ならびに清掃作業を実施しました。

両業務を合わせて、28,554人を雇用しました。

【事業費総額272,344,000円。うち人件費211,848,652円、事務費35,739,000円、調整額-2,197円、消費税24,758,545円】

② あいりん日雇労働者等自立支援事業高齢日雇労働者社会的就労支援業務

大阪市からは「あいりん日雇労働者等自立支援事業」内「高齢日雇労働者社会的就労支援業務」を受託しました。

そのうち、「あいりん地域内及びその周辺的环境美化に関する作業」においては、あいりん地域内及びその周辺の道路清掃、側溝清掃、除草作業を実施しました。今年度より天下茶屋駅東側口一タリーまで作業現場が広がりました。

「あいりん地域外的环境美化に関する作業」においては、市有地・道路・公園等での除草・剪定および清掃等、市立保育所でのペンキ塗り・剪定・修繕等の作業を実施しました。

両作業を併せて38,342人を雇用しました。

【事業費総額339,513,000円、うち人件費292,684,674円、事務費15,963,508円、消費税30,864,818円】



(各現場にてマスク着用しての作業)

③ あいりん労働福祉センター環境美化事業

公益財団法人西成労働福祉センターから「旧あいりん労働福祉センター環境美化事業」を受託しました。のべ2,333人を雇用して、旧あいりん労働福祉センター敷地内の清掃や放置物の撤去作業を行いました。旧センターの閉鎖に伴って2019年度から始まりましたが、2021年度は、大阪府のあいりん地域高齢労働者就労自立支援事業の一部に再編成されることになりました。

【事業費総額25,629,615円。うち人件費21,735,858円、事務費1,563,792円、消費税2,329,965円】

④ あいりん労働公共職業安定所における施設管理・交通誘導警備

就労機会の確保のため、2020年度一般競争入札での受注をめざしましたが、結果は一般の企業が落札しました。一部の再委託を受け、就労機会確保を継続することができました。

各事業部より就労支援が必要な方を受け入れ、いきいき清掃講座・警備講座等と組み合わせながらステップアップの機会として活用していただきました。

⑤ メーデー会場清掃業務

連合大阪の協力のもと毎年実施していたメーデー会場の清掃業務は、コロナの影響によって集会が開催されないことになったため、中止となりました。

⑥ その他請負業務

民間企業等から幅広く除草・塗装・剪定等の作業を請負って実施し、釜ヶ崎の日雇労働者やホームレス生活者の就業機会の確保に努めました。



(2) 居場所提供事業

① あいりん日雇労働者等自立支援事業居場所支援

夜間シェルターの運営

大阪市から委託を受けて、あいりんシェルター管理運営業務を実施しました。開所日数は359日。のべ利用人数 70,612人。

昼の居場所棟の運営

大阪市から委託を受けて、あいりんシェルター内昼の居場所棟（禁酒の館）にて、居場所・洗濯機・シャワー等の提供を行いました。

【事業費総額169,722,304円。うち大阪市による当初事業費112,697,000円（人件費90,128,112円、物件費12,323,706円、消費税10,245,182円）、新型コロナウイルス対策57,025,304円（臨時人件費27,233,558円、あいりんシェルターの拡張19,720,683円、衛生物品の購入10,071,063円）】

② あいりん日雇労働者等自立支援事業越年時支援

2020年12月29日から翌1月3日早朝まで、あいりん地域に居住する単身日雇労働者であって、年末年始に仕事を得られないため自ら食及び住を求めがたい方217人に対し、あいりんシェルターにて宿泊場所を提供するとともに食品・日用品等を支給しました。

また、地域の日雇労働者、生活困窮者からスタッフを採用し、就労機会を作りました。

新型コロナウイルス感染予防のため、越年の臨時宿泊所の拡張として、高齢者から一部簡易宿所を利用してもらう運用がありました。また、12月30日以後に生活困窮状態で相談に来られて結核検診を受けていない方について、今年度より簡易宿所の活用が始まりました。

【事業費総額12,119,000円、うち人件費5,856,299円、その他経費6,262,701円】

(3) 相談・サポート事業

① 就業支援事業

大阪ホームレス就業支援センター運営協議会から委託を受けて、就労自立を目指す人への就職相談・就職支援事業を実施し、求人情報の提供・求人企業への紹介、面接の受け方および履歴書作成の指導をしました。履歴書用の写真撮影・提供、携帯電話・自転車・スーツ等の貸し出しを行いました。南事務所にパソコンを設置して、ハローワークインターネットサービスの求人検索用に提供しました。2020年度新規登録人数は140人、相談実人数は278人、相談件数は921件、常用就職実績24人、臨時就職延人数は、1,897人となりました。

また、就業支援員8人を大阪府・大阪府が実施する特別清掃における現場監督・指導を行うために配置し、作業指導とともに日常の相談を実施し、就職相談・訓練事業等への中継を行いました。

【事業費総額47,322,993円、うち人件費40,735,903円、事務費2,285,000円、消費税4,302,090円。】

② 就業開拓推進事業

大阪ホームレス就業支援センター運営協議会から委託を受けて、支援対象者に応じた個別の求人開拓、地域への貢献活動となる仕事の開拓、地域におけるチラシ配布等の広報宣伝活動を行いました。事業所等接触件数288件、常用の求人件数17件・実人員数157人、臨時・軽易の求人件数67件・実人員数511人でした。

【事業費総額4,326,810円。うち人件費3,703,264円、事務費230,200円、消費税393,346円。】

③ あいりん地域不安定労働者就労支援事業

民間企業への就職に伴って4ヶ月間の助成金が企業に支払われる仕組みを活用しつつ、自立支援センター入所者やあいりん地域の55歳以下の不安定労働者等を対象に相談・就業支援を実施しました。協力事業所登録状況13社、支援実施状況23名でした。

また、土日祝のあいりん労働公共職業安定所の待合室で、「いきいき清掃講座」を開催すると共に旧あいりん総合センターの閉所に伴って待機や手洗い等に使用できる施設の不足に対応し

て、待合室の一般開放を行いました。また就労支援の一環としてのべ474人の就労機会を作りました。2020年度初めての取り組みとして「いきいき警備講座」も開催しました。

【事業費総額15,339,447円、うち人件費13,383,952円、事務費561,000円、消費税1,394,495円。】

写真 警備講座

④ あいりん日雇労働者等自立支援事業相談支援

大阪市から「あいりん日雇労働者等自立支援事業」内「相談支援」を受託、実施しました。あいりん地域の日雇労働者等に対し、特別清掃やあいりんシェルターと連携しつつ、健康相談や生活相談等を行い、就労自立、野宿からの脱出を助ける支援を行いました。就業支援員等から現場作業のようすを報告してもらいながら、体調が思わしくない／高齢などの方を相談し、寄り添い型の支援を行いました。

歯科相談会・健康相談会を医師・看護師・保健師との協働で開催しました。歯科相談利用者は74人、健康相談利用者は209人でした。

実人数2,245人（うち、新規相談実人数585人）、のべ10,384人の相談を行いました。相談のべ人数の内訳は、就労相談158人、生活保護相談1,698人、健康・保健支援893人、その他相談・各種支援7,635人、歯科相談会74人、健康・生活相談会209人。

2020年度の相談状況の詳細を見ますと、精神科を除く医療機関での入院面会、通院同行などの制限により健康・医療相談は前年比53%となりましたが入院人数は前年とほぼ変わりませんでした。

また4～7月ごろまでは、コロナ対策としてケースワーカーからの就労指導の停止もあり就労相談、就労決定も前年比40%程度にとどまりました。

ただ既存の利用者の相談件数は減少したものの、新規相談件数においては前年比141%となり新型コロナウイルスの影響による20代～40代の失業者の相談件数が顕著にあらわれました。また相談実人数も425名増という結果になりました。

コロナの影響への対策として、5月～6月に計4回 あいりんシェルター前で「緊急相談会」を開催、併せて特別定額給付金（10万円）の申請相談、シェルターでの住民票設定のための相談会もおこないました。

【事業費総額32,037,991円。うち人件費27,025,740円、その他経費2,099,706円、消費税2,912,545円】

④ 西成区と協働した結核検診

特掃登録者を対象とした結核検診を、8月開始と1月開始との2回にわたり実施しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、CR車を使った一斉検診を行わず、特掃登録の番号帯ごとに分散して、西成区役所保健福祉センター分館にて検診を受ける形になりました。

⑤ 大阪府済生会と協働した健康診断

新型コロナ・ウイルスの感染拡大により、医療従事者からの感染を防止する観点から2020

年度の健康診断は中止となりました。

(4) 社会的雇用創出事業

① 自転車リサイクルシステムの構築

阿倍野区文の里商店街にあるチャリティ自転車ポタリンを経営しました。事業としては赤字であり、赤字の解消や新しい取り組みに向けて経営の会議を月1回開催しています。

② 公園管理就労体験事業

住之江公園においては大代興業株式会社と、住吉公園においては株式会社美交工業と、都市公園管理共同体を構成し、指定管理者として運営の一端を担いました。当機構から両公園で62人に対して、1,248人日の職場体験講習を活用した就労体験の機会を提供することができました。

③ 公園管理経験者訓練事業

住之江公園において灌水、除草、樹木剪定、植栽などの作業に、園芸講習の経験者及び地域密着型就労自立支援修了者実人数5人、のべ459人が従事しました。

④ 内職作業提供事業

民間企業からの受注により、就労の前段階に生活リズムを整えるなど準備期間が必要な方、疾病や障がい等のために、すぐには就労に結びつきにくい方に対して、内職作業を提供しました。

就労意欲の助長と収入の増進のために、特掃登録者に作業を提供しました。のべ1,556人が作業に従事しました。



(5) 地域活性化事業

① 西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業（ひと花プロジェクト）

大阪市西成区より受託し、単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくりと地域貢献による西成区のイメージアップに取り組みました。新型コロナウイルスの影響により、ひと花カフェなどの集まって行うプログラムを実施できなくなりました。そのかわりに金銭預り・服薬の見守りを強化、高齢化に対応した様々な生活支援を充実させています。ひと花プロジェクト連合体（まちづくり今宮、山王訪問看護、こえとことばとこころの部屋、釜ヶ崎支援機構）で事業運営を行

いました。山王訪問看護は、HEALTH SUPPORT HINATAに代わって、2020年度より参加いただきました。

【事業費総額9,626,996円、内消費税875,181円】



③ 西成版サービスハブ構築・運営事業（どーん！と西成）

2019年度より始まった大阪市西成区の委託事業で、今年度で2年目を迎えました。西成区で生活保護を受給している15～64歳を対象とし、就労支援や生活支援、社会的つながり作りや支援の連携を実施しています。2020年度は85名が利用しました。平均年齢は45歳で若年層の方も多数利用しています。元々日雇労働で生活をしてきたが体を壊してしまった人、寮付き派遣で働いていたけど派遣の仕事が無くなり西成にやって来た人、元々西成及びその周辺で生まれ育った人など様々な背景の方が利用されています。

支援実績は下記の通りです。

就労	ボランティア活動の繋ぎ	プログラム参加	身分証発行	携帯電話契約	受診同行	障がい者手帳取得支援	転居支援	他団体への繋ぎ
38件	25件	25人	8人	13人	20人	16人	11人	23人

ヨリドコ西成連合体（萩之茶屋地域周辺まちづくり合同会社、サポータティブハウス連絡協議会、こえとことばとこころの部屋、釜ヶ崎支援機構）で事業運営を行いました。

【事業費総額 24,167,515円 内消費税 2,197,046円】



※以上事業費は当初見込みで記入しています。

(6) その他の事業

① 「ビッグイシュー」販売支援事業

ビッグイシュー本社より遠い大阪南部での販売者の利便をはかるため、仕入れ中継点とし

での役割を果たすとともに、さまざまな相談に応じました。販売希望者を受け付け、ビッグイシューへの橋渡しを行いました。

② ネットワーク推進

西成区関連では「区政会議」「環境福祉・専門部会」「あいりん地域まちづくり会議」「包括支援センター運営協議会」に委員として参加しました。あいりん地域モデルケース検討会議に参加しました。

大阪市社会福祉協議会に評議員として参加しました。

西成区社会福祉協議会、今宮社会福祉協議会、NPO法人まちづくり今宮に理事として参加しました。

「ホームレス支援全国ネットワーク」に副理事長として参加しました。

「日本ソーシャルインクルージョン推進会議」「共生型経済推進フォーラム」「NPOまちづくり今宮」に参加。「環境福祉学会」「ソーシャルファームジャパン」「大阪環境ネットワーク」に法人として参加しました。

ワーカーズコープとの提携関係を深め、月1回の定期協議を行い、情報の共有を進めました。

③ 職員及び地域の連携団体とのコミュニケーション研修を3回開催しました。

④ 炊き出しによる食事の支援

越冬闘争実行委員会、釜ヶ崎就労・生活保障制度実現をめざす連絡会（反失業連絡会）と協働し、炊き出しによる食事支援を行いました。

（7）社員総会の開催状況

第21回社員総会

日時 2020年7月18日 午後6時～7時 場所 釜ヶ崎支援機構南分室2階
新型コロナウイルス感染拡大中であることに配慮し最小単位での開催とさせて頂き
会員23名中17名（内委任状1名 書面表決書12名）が参加して第21回社員総会を
開催しました。

事業報告・会計報告・事業計画・予算等を審議し、採択しました。

（8）理事会の開催状況

理事会は1回開かれ、当法人の活動の大方針について論議し決定しました。

第32回理事会 日時 2020年7月18日 午後5時～5時45分
場所 釜ヶ崎支援機構南分室2階